姫路の地域資源 ひめじの宝物

遺跡・史跡、歴史上の名所 / 神社・仏閣、歴史的建造物 / 歴史上の人物など / 祭り・伝統行事 / 美術品 / 伝統芸能など / 景勝 / 生物・花 / 町並み / etc その他

※掲載は地域資源のマーク順・五十音順です。

世界文化遺産・姫路城

池田輝政が慶長6年(1601)から約9年の歳月を費やして五層六階地下一階の天守を築いたのが、現在の姫路城のはじまりである。その後、姫路城は、戊辰戦争や廃城の危機を乗り越え、太平洋戦争の戦禍を免れて奇跡的に生き残った。昭和26年に国宝指定を受け、平成5年12月11日に法隆寺とともに日本で初めて世界文化遺産に登録された。

▶MAP E-6

英賀城　本丸跡碑
英賀城は、嘉吉元年(1441)三木通近が入城して、三木氏10代、140年間、播磨地方における政治、文化、宗教の中心となり、寺内町を構成して栄華を極めたが、羽柴秀吉による城攻めにより落城した歴史が記されている。

▶MAP D-7　英賀保

英賀本徳寺(英賀御坊)跡
城主三木一族、播磨一円の町衆が帰依の下、明応2年(1493)蓮如上人が開基、永正12年(1515)英賀本徳寺が落慶した。この頃、播磨の浄土真宗は隆盛を極めたが、天正8年(1580)秀吉の英賀城攻略にあい、寺基は亀山に移築。

▶MAP C-7　英賀保

置塩城跡
夢前川の東岸、標高370m。本丸・二の丸・三の丸をはじめ幾多の曲輪、石垣、土塁などの城郭遺構が残り、東西約600m、南北約400mにわたって広がる播磨最大級の山城跡。後期赤松氏を再興した赤松政則が築城したと伝える。国指定史跡。

▶MAP D-4　置塩

春日野古墳群(飾東古墳群)
城山中学校の北の山麓などに12の古墳が散在している。1号墳は特色ある石室構造をもっており、2号墳は、播磨では最大級の円墳であることが確認され、金メッキを施した銅製の馬具の一部などが発見されている。

▶MAP F-6　谷外

上伊勢古墳
伊勢小学校の東方の竹薮斜面にある。玄室は奥行3.37m×幅2.17mの横穴式石室。天井石は一枚の大きな板石を用いている。

▶MAP C-5　伊勢

上筥岡・下筥岡・魚戸津・朸田
奈良時代に編纂された「播磨国風土記」に見える地名で、勝原区山戸・熊見、大津区西土井・天満あたりに比定できそうである。「魚戸津」は大津茂川の河口地、「上筥岡」は西土井にある小丘と考えられている。

▶MAP B-7　大津茂

亀岩の伝説
岩全体が亀の甲羅に似ていることから名づけられた。亀岩のくぼみには、年中枯れずに水がたまっている。崇神天皇の時代、この岩に香稲が4本生え、天皇の命令により、稲種が全国に広まったと言われている。

▶MAP C-5　太市

河合家墓所
河合寸翁は姫路藩家老として藩財政の再建に多くの功績を残している。姫路産木綿の江戸専売や新田開発、固寧倉の設置などがその成果としてよく知られている。後に、この墓所が河合家一族の墓所となり「河合家墓所」と呼ばれる。

▶MAP E-7　糸引

勘兵衛新田大手囲堤碑
天保13年(1842)に龍野藩主脇坂淡路守が幕府の命を受け、則直村の三木勘兵衛に大津茂川河口の干拓を命じた。勘兵衛は弘化元年に潮止めに成功し、嘉永2年稲黍を試作、同7年に本検地が行われた。勘兵衛を称えて石碑が建てられた。

▶MAP C-8　南大津

切手・木綿会所跡
江戸末期、酒井家の家老河合道臣(寸翁)は、藩の財政改革のため、文政3年(1820)、切手会所を設け銀札・銭札を発行し、翌年国産木綿会所を併設して、木綿切手を発行した。

▶MAP E-6　城巽

君浦由来記(君ケ浜公園内)
吉美村には、大津で最も古い地名由来記の君浦由来記が残っている。それによれば吉美村は古名を君浦と言い、明応元年(1492)、君箇濱と改名したと記されている。

▶MAP B-7　南大津

旧山陽道の道標(青山)
旧山陽道と県道724号の交わる角に在る。安政2年(1855)建立。高さ2.13mで市内最大級の道標。「右　因州・伯州・作州・雲州。左　備前・九州。東は姫路・大坂・京・江戸」とあり、さらに距離を表示。市指定文化財。

▶MAP C-6　青山

銀の馬車道「馬車道修築碑」
姫路・砥堀にある橋が「生野橋」と言われる。この馬車道で一番の難工事が市川架橋であったため、それを記念して生野の名をとり「生野橋」と命名された。この道路の来歴を記したのがこの碑である。

▶MAP F-6　砥堀

空爆の碑
川西航空機姫路製作所跡。姫路は、昭和20年6月22日午前10時半頃の空襲、7月3日深夜の焼夷弾による空襲により焦土と化した。犠牲者の霊を慰め、人命の尊厳と平和を希求し戦争が無くなる事を念じ、平成8年城東地区連合自治会建立。

▶MAP E-6　城東

国府山城跡
標高98mの甲山(荒神山、功山)にあり、別称に袴垂城・功山城など。天正8年(1580)羽柴秀吉に姫路城を渡した黒田官兵衛孝高は父職隆とともに移り住んだ。山麓の「妻鹿城址」の碑は昭和45年建立。

▶MAP E-7　妻鹿

苔の清水・苔の地蔵(山崎)
国道372号山崎バス停から天川を渡り、自転車専用道を南下すると、山麓にお堂があり、右脇に清水が湧いている。この清水は苔の清水と呼ばれ、播磨十水の一つといわれた。また、お堂には3体の石仏があり、苔の地蔵と呼ばれてきた。

▶MAP F-6　谷内

こしかけ岩
腰掛岩は、大塩の東から日笠山に登る所の「岩神社」にあり、菅原道真公がこの岩に腰をかけたから腰掛岩と呼ばれるようになったという伝承と、輿をこの岩に置いたからという言い伝えがある。

▶MAP G-8　大塩

虚無僧塚と人身御供神事
北条天満宮から三宅ハノ宮の藪に住み、田畑を荒らしたハツ目イタチを虚無僧が退治したことにちなむ「オトウ」と称してくじで男女を決めて神に詣でる人身御供神事が明治末年まで残っていた。参道入口に虚無僧塚の石碑がある。

▶MAP E-7　城陽

権現山古墳
南に開口部をもつ横穴式古墳で、一辺30mほどの方墳とみられている。羨道は10m、玄室は片袖式、奥行4m、幅2mは市内最大規模。市指定史跡。

▶MAP F-6　砥堀

才の地蔵尊
諸国巡拝の行者玄達が、天保2年(1831)から3年かけて建立。高さは3mの大型の地蔵菩薩である。石工は塩市村(現高砂市)庫本伊兵衛。毎年8月24日には地蔵盆が盛大に行われている。

▶MAP C-7　八幡

坂本城跡
平城で別名を堀之城または御構御所ともいう。城の規模は堀を含めて180m四方の大きさと考えられる。応永29年(1422)赤松満祐が播磨支配の拠点として築城。赤松円心の時代、播磨支配の構居としていたとも考えられる。

▶MAP D-6　曽左

坂元山古墳群
宮山古墳の西方の坂元山尾根上に、6基の竪穴式石室、南裾に4基の横穴式石室を持つ古墳が点在している。

▶MAP E-7　四郷

札の辻
江戸時代、法度・人相書きなどの触書を記した高札場が、中門筋と西国道の交差する、城下町で最も多くの人々が往来する此の辻の南西角に建てられていた。平成11年、城南連合自治会により、文化財サインがこの辻に設置された。

▶MAP E-6　城南

三左衛門堀(現外堀川)
慶長年間、池田三左衛門輝政が、姫路城外堀と飾磨津を結ぶ運河として掘り進めたもの。未完だが輝政の名に因んで三左衛門堀と言われる。

▶MAP E-7　城陽

思案橋(お旅)
明治中頃まではこの一帯は畑地で、船場川の「思案橋」は木製だった。思案橋西詰は津田天満神社のお旅所で、大正13年に菅公小憩伝説地の石碑が、昭和37年に道真公銅像が建立された。昭和46年、思案橋はコンクリート製になった。

▶MAP D-7　津田

下手野道標
この道標は、下手野の旧山陽道から因幡道・龍野道へと分岐するところに建っている。明和4年(1767)、円光大師二十五霊場の一つである誕生寺に巡礼する者のために建てられ、今宿からつづいた宿場として発達した。

▶MAP D-6　高岡西

下野古墳群
この地には数十基の古墳群がある。後期古墳時代(6世紀)のもので、中には石室内に石棺が残っているものもある。また土の盛り上がった場所も数か所あり崩壊した古墳と思われる。

▶MAP C-7　八幡

庄山城跡
庄から豊国に至る集落の北に中世の山麓を代表する庄山城跡(194m)がある。赤松貞範が正平4年(1349)に築いたもので、丹波道、有馬道、但馬道が山麓で交差する交通の要地にあたる。石垣、井戸などの遺構がわずかに残る。

▶MAP F-6　谷外

仁寿山校跡
姫路藩家老として財政の再建に多くの功績を残した河合寸翁が文政4年(1821)に設立した私立の学問所が仁寿山校。仁寿山校は身分や旧習にとらわれない教育を目的とし、人材を育てた。今は山校跡には井戸と土塀跡を残すのみ。

▶MAP E-7　糸引

千本松跡
元禄年間(1688～1704)に、岩村源兵衛が水害を防ぐために揖保川堤防に松980本を植えたのが始まり。その後、堤防は決壊することがなくなり、村人に義民として称えられた。今は平成に植樹された数本が見られるのみ。

▶MAP B-7　余部

袖もぎ地蔵
木場から福泊への峠道に小堂がある。内部に東向きに安置された石棺仏を袖もぎ地蔵という。家型石棺蓋石に地蔵立像が陽刻され、この地蔵の前で転んだ者は厄払いのため、着物の袖を供えなければ凶事があると伝承されている。

▶MAP F-8　八木

外京口門跡
外曲輪の5つの門の一つ。京都への道筋にあるので「京口」となり、中曲輪の内京口門に対し「外」と付けた。鉤型特殊な桝形をした門。明治に撤去され跡地には東光中学校が建ち、体育館地下には石垣の一部が保存されている。

▶MAP E-6　城東

壇場山古墳
全長約143m、5世紀前半の前方後円墳で、南南東に後円部を、北北西に前方部を向け、くびれ部の西側に造り出しが認められる。周囲には陪塚の第1、第2古墳がある。西播磨最大の古墳で国指定史跡。

▶MAP F-7　御国野

丹波道道標(小川)
「右かみはらだ」「左しょしゃ」と記されている。

▶MAP F-6　花田

恒屋城跡(ほか7箇所)
赤松氏の家臣恒屋氏の居城で、長禄2年(1458)頃築かれたという。恒屋城は、前城200m、後城は236mとされ、特に西斜面には長さ6～12mの竪堀が何本も掘られている。竪堀が残る城跡は、山城研究において貴重な史跡である。

▶MAP E-4　中寺

溺死菩提碑
寛延2年(1749)姫路城下は、未曾有の大出水に襲われ被害は三町五反あまりに及んだ。城下の溺死者に対して後七回忌の宝暦5年(1755)にその菩提のため山脇に立てられた碑である。

▶MAP E-7　花田

伝伏見天皇離宮跡の碑
伝伏見天皇離宮跡の碑。この石碑は伏見天皇の離宮があったというので、昭和5年に郷土史家矢内氏が中心になって建設された。

▶MAP E-6　城北

東山焼窯跡
姫路焼、興禅寺焼ともいわれ、文政5年(1822)興禅寺東の山麓に窯を築き、有田系の磁法で、染付や青磁の徳利や皿・鉢などを焼いた。現在、窯跡は、畑に整地され、作業場の井戸跡と窯跡を示す標柱が建てられている。

▶MAP F-7　糸引

豊国の道標
谷外小学校から100mあまり西の三差路にあるこの道標は、西国三十三所巡礼を成就した人たちが延宝5年(1677)に建てた。道標として姫路市内で最も古く、全国的にも古い道標である。市指定文化財。

▶MAP F-6　谷外

名古山弥生式遺跡
名古山東斜面から弥生時代中期末の竪穴式住居跡・土壙墓・壷棺墓等が発見された。中でも、住居跡内から出土した袈裟襷文銅鐸の鋳型(砂岩製)は、わが国最初の出土例として学会に大きな反響を呼んだ。

▶MAP D-6　高岡

花田井(別名:花田湯(はなだゆ))
市川に井堰をつくり分流し、高木、小川、勅旨、上原田、加納原田、豊国、深志野、国分寺、御着などの耕地を養っている。天保元年(1830)に保城山麓に新しい樋門を作り現在に至る。校区の花田は花田井からつけられた。

▶MAP E-6　花田

跳橋構造式　大吉橋跡　記念碑
吉美村と大江島村を結ぶ大吉橋は、帆船や高瀬舟が大津茂川を行き来できるよう、橋の東半分を手動ウィンチで巻き上げる跳橋として昭和7年にかけられた。その後、昭和27年に新しい橋をかけるために取り壊された。

▶MAP B-7　南大津

刃の宮地蔵
「播磨鑑」によれば、刀匠三条小鍛冶宗近が宇佐八幡宮に向かう途中、夢で「神剣を松原神宮に奉納するように」と神託を受け、神狐孫太郎と共に小剣を作り、松原神宮に奉納。宗近がこの地で果てたので、地蔵を安置して祀ったという。

▶MAP E-7　城陽

破磐神社と割れ岩
祭神は、神功皇后・仲哀天皇・応神天皇。往古、神功皇后が麻生山から戦の勝利を祈願して放った3本の矢のうちの1本が太市郷西脇村の大磐を3つに破ったとされる。これを吉兆としてその矢を祭ったと伝えられている。

▶MAP B-6　太市

林田藩陣屋跡・聖ケ岡
林田藩建部家は元和3年(1617)播磨国林田に封地を移し、聖ケ岡に陣屋を構えた。建部家は江戸期の繁栄を経て、明治2年の大政奉還まで、10代250年にわたって林田を治めた。平成24年に陣屋跡石碑建立。

▶MAP B-5　林田

播磨国分寺
国分寺は、奈良時代聖武天皇の詔により、国毎60余ヶ所に設置することが、定められた官寺。国分寺は方二町(一辺200m)の範囲が寺域で現在、国指定史跡となっている。現在の国分寺の境内には県指定の宝篋印塔などがある。

▶MAP F-7　御国野

瓢塚古墳
墳長約104mの前方後円墳で、墳丘は2段築成で葺石(ふきいし)が認められる。前方部は細くバチ形に延び、最古級の古墳であることを示している。かつて後円部の南に片寄った所で竪穴式石槨が見られた。国指定史跡。

▶MAP B-7　勝原

氷室池
天保13年(1842)、姫路城主酒井忠学の時、夢前町玉田、安室六か村の灌がい水源として完成した大池。周囲は約4km余りあり、当時としては姫路藩でも屈指の大池であったが、現在は灌がい用としては利用されていない。

▶MAP D-5　置塩

深田遺跡
弥生時代の遺跡。姫路高等学校が辻井に移転し、城乾小・中学校建設の際、発掘調査が行われ、弥生土器をはじめ土師器や須恵器など多数が出土。城乾小学校正門前に記念碑がある。

▶MAP E-6　城乾

法恩寺跡墓石群
古知之庄法恩寺は置塩神社南山麓にあったが、昭和40年の水害で流出。残った墓石群の右端に県指定文化財である石造無縫塔がある。背面に「開山塔」、側面に「永和四年(1378)」とある。室町時代の石造美術として貴重な文化財である。

▶MAP E-4　古知

みちしるべ　一石一字法華経塚
天満神社南道路脇に位置。明和2年(1765)に造立された道標。表「右たじま道」裏「明和二年酉　谷口助五□」の銘がある。背後にある一石一字法華経塚には「天明八捻歳／明善坊／次戊申龍集日／豪湛」などの銘がある。

▶MAP G-5　山田

三ツ塚古墳
市立東中学校前庭に保存されている横穴式石室古墳。玄室の長さ4m、高さ2.5mの円墳で、古墳時代後期(6世紀)になるとこのような小古墳が多数作られるようになり、村の有力者やその家族が葬られた。

▶MAP F-7　別所

峯相山鶏足寺
峰相山山頂南西斜面の数段の平坦面が鶏足寺跡と想定される。鶏足寺は神功皇后が連れ帰った新羅国の王子が草創したと伝えられている。天正6年(1578)羽柴秀吉に抗したために全山焼失し、その後再興されず廃寺となった。

▶MAP C-5　太市

峰相山と鶏足寺
打越・石倉・下伊勢・上伊勢にまたがる標高239.7mの山で、尾根伝いに近畿自然歩道が書写山・峰相山を経て林田方面へと通じている。鶏足寺は、新羅の王子の創建といわれ、奈良時代に隆盛を極め、鎌倉時代末期に衰微した。

▶MAP C-5　峰相

見野古墳群
見野和光公園を中心に、古墳時代後期の横穴式石室を持つ20基の古墳が点在する。そのうち2基の古墳は大変珍しく、1つの封土に二つの石室を持つもの、もう一つは天井石が5mもある巨石であるため「姫路の石舞台」とも呼ばれている。

▶MAP E-7　四郷

宮山古墳
宮山古墳は5世紀後半の古墳で、直径約30m、竪穴式石室を持つ円墳。昭和44年、48年の2回の緊急発掘調査で、3つの埋葬施設が確認され、県指定史跡となった。平成17年、埋蔵文化財センターが隣接地にオープン。

▶MAP E-7　四郷

妙見堂石段
大正12年4月に竣工したもので、5段に区切られ、全長は84mで247段あり、一番下の石段は長さ36mで111段と最も長い。妙見堂石段の側には雄大な大イチョウがある。

▶MAP E-2　山之内

焚堂
「太平記」の逸話から、圓通寺裏手の小堂は、高師直に追われた塩冶高貞の妻が自害した場所との伝承があり、焼けた堂の跡に、文政2年(1819)に「薩山焚堂早田妙応夫人の碑」が立てられた。

▶MAP F-5　豊富

六騎塚
建武3年、児島高徳の父範長主従6人が自害した跡と伝えられる。北宿の旧山陽道北側に碑が建っている。正面に「備後守児嶋君墓」裏に「嘉永三年庚戌年(1850)五月十九日　佐和田清左衛門範一建之」と彫られている。

▶MAP F-7　別所

六本松の道標
この道標の北正面には「左姫路宿屋町江二十五丁」右側には「右車崎六丁目道」左側には「従是書写山江二十丁」と刻まれており、南面には文久2年(1862)と記されている。古来より書写道・鹿谷道に通じている唯一の古道。

▶MAP D-6　安室

和久遺跡
弥生時代後期～古墳時代初めの集落遺跡。これまでの発掘調査で100棟余りの竪穴住居跡、土坑や溝などが検出。大量の弥生土器も出土。大型の方形住居跡からは銅鏃(どうぞく)や水色をしたガラス製勾玉(まがたま)が出土。

▶MAP B-7　旭陽

英賀神社
英賀神社は英賀保校区の氏神で「播磨国風土記」にも記載がある由緒ある神社。英賀城主三木通近が領内の総氏神とあがめ、歴代城主が祭祀盛儀を尽くした歴史、および「銅鐘」「紙本著色天神縁起絵巻」等の重要文化財が残されている。

▶MAP C-7　英賀保

赤レンガ造りの倉庫
明治9年に完成した官営生野鉱山馬車道の旧飾磨津物揚場跡に残る倉庫。フランス人シスレーの設計で、約70万個のレンガを使用し、レンガの積み方はイギリス積みと言われる。日本初の高速道路とも言われる「銀の馬車道」の終着点。

▶MAP D-7　飾磨橋西

天御酒神社
祭神木花咲耶姫。古知之庄、杉之内、塩田、荒神山地区の氏神。寛文2年(1662)の創建と伝えられる。神殿は明治30年の改築で、安産の神として参拝者が多い。秋の大祭は屋台練りが盛大に行われる。

▶MAP D-4　古知

荒川神社
荒川神社山麓を薊川が流れていた頃、岡田に水を引く水口にあたる所が井ノ口と言われていた。祭礼日には鳥居道に町坪・中地・玉手・井ノ口の屋台が、北の参道には岡田・西庄の屋台が入ってくる。狭い通りを屋台が通るのは壮観。

▶MAP D-7　荒川

家島神社
「続日本後紀」には、承和7年(840)建立とあるが、2600年以上さかのぼるとの伝承もある。「延喜式神名帳」の撰保郡七座の一つ。祭神は大己貴命、少名彦命、天満天神で、家島諸島・播磨灘鎮守府として島民の崇敬を集めている。

▶MAP G-1　家島

射楯兵主神社(播磨国総社)
飾磨郡伊和里に祭られた兵主大神(大国主命)を、天平8年(736)水尾山に崇祠。延暦6年(787)国衙荘小野江の梛本(国立病院付近)に遷座。のち、飾磨郡因達里に祀られた射楯大神(五十猛命)を遷し合祀、射楯兵主神社と号す。

▶MAP E-6　城巽

齋神社
齋(いつき)神社は、実法寺と町田の氏神。「飾磨郡誌」によれば、昔播磨一の宮の伊和神社の分霊を総社に勧請した時、ここで休んだことから、後年に分霊を勧請して祀った。門は安志藩陣屋(安富町安志)の大手門といわれ明治初期に移築。

▶MAP C-6　白鳥

稲丘・稲岡神社
稲丘は「播磨国風土記」の14の丘の一つ(稲牟礼丘)。祭神は豊受姫大神・射目崎明神とあり、射目崎明神は「日本三代実録」貞観10年(868)の条にみえる国史見在神。当社より北方に祀られていたが、のちに稲岡神社に合祀された。

▶MAP C-6　青山

岩神社
本殿の後ろに高さ4m程の岩がある。宝暦10年(1760)の「宇佐崎組　寺社明細帳」に、社名は「岩神」。社地「堂なし岩ばかり」と記され、岩がご神体であった。明治9年本殿を創建。明治12年「神社明細帳」に社名は岩神社とある。

▶MAP E-8　八木

宇佐八幡神社と地福寺
明治の神仏分離令により、日本中で1つの境内に祀られていた社寺が分離された。しかし、ここでは社寺が同一境内にあり、前の姿を残している。

▶MAP F-5　船津

魚吹八幡神社の楼門
棟札や瓦銘から、貞享3年(1686)の建立と考えられる。三間一戸の入母屋造で、規模が大きく細部の手法にすぐれている。県指定文化財。

▶MAP B-7　旭陽

蛭子神社
明治6年の記録に、大己貴尊・事代主尊(恵比須神社)394坪と記載がある。村前新田50町歩(現天神町・恵美酒町)が開発された寛永期(1624～1643)ごろには、既に建っていたと考えられる。

▶MAP C-7　大津

恵美酒神社(えべっさん)
坊勢島の玄関口である奈座港西端の山頂にあり、瀬戸内の眺望が楽しめる。建立は元慶7年(883)以前と伝わるが、詳しい年次は不明。蛭子大神を祭神とし、秋季例祭が毎年11月3日・4日に行われる。

▶MAP G-2　坊勢

圓明寺
天台宗。本尊は薬師如来。天禄元年(970)性空上人の開基と伝わる。現在地より600mほど北東の莇野谷の山上にあったが衰微。のち一心上人が再興し、やがて修験道場となり播磨教学院となった。大正12年に現在地に移築。

▶MAP C-3　莇野

大塩天満宮
祭神は菅原道真。都市計画道路大塩曽根線の建設計画に伴い、現在地に移転。10月14日・15日の秋季例大祭は、8頭の毛獅子によって道中舞と地舞が演じられる勇壮な獅子舞(県指定無形民俗文化財)が奉納されることで有名。

▶MAP F-8　大塩

大歳神社(飾西)
菅生川東岸の山麓にある飾西の氏神。飾西宮山を鎮守の森として飾西の里と共に守られてきた。宝暦10年(1760)の石灯籠、文化10年(1813)の石鳥居などがある。平成12年全面改築。

▶MAP D-6　白鳥

大歳神社(大日)
祭神は稚産霊神・倉稲魂神。北条時頼が再興し、後に慶雲寺の鎮守となる。また、姫路城の鬼門として池田輝政が信仰していた。方広寺の鐘の鋳造を指揮した野里の鋳物師(いもじ)芥田五郎衛門が、支配役として奉仕した神社でもある。

▶MAP E-6　水上

長壁神社
長壁大神は光仁帝の継嗣刑部親王と娘富姫の二神で、姫山の地主神として歴代城主は祭祀を重んじた。代々の守護職、国司から厚い保護を受け、一般の人々からも尊敬を受けた。長源寺に日供所が設けられていたが、大正末に分離した。

▶MAP E-6　城南

お夏・清十郎の比翼塚
姫路城主榊原忠次の時代(1662年)に事件が起きた。但馬屋の娘と奉公人の清十郎との悲恋物語で、井原西鶴の小説の題材にもなった。比翼塚は、二人の霊を慰める為に但馬屋が建立したものと言われている。

▶MAP E-6　野里

回国地蔵
地蔵の台石に「日本回国」や「享保」の銘文が刻まれており、また、地蔵も同時に奉納されたとみられる前の石燈篭に「享保14年」の年号があることから、1729年に日本廻国の記念として奉納されたと考えられる。

▶MAP C-7　大津

勝松神社
祭神、金山彦命。もとは赤松政則建立の勝松寺という禅寺の鎮守として祀られたもので、昔は弁財天を祀っていたが、天正年間に別所の兵火に寺は焼失し、以後勝松神社となった。唐人図をはじめ干支子絵馬や拝み絵馬が多く残る。

▶MAP E-6　水上

蒲田神社
祭神の応神天皇が播磨を巡幸されたことがあり、後に人々がご駐輦の跡に一宇を建て聖徳を偲んだことが神社の起源とされる。貞享年間(1684頃)よりの絵馬が多く奉納されている。八幡の名称は、祭神の別名八幡大神より引用している。

▶MAP D-6　八幡

神元神社
第21代雄略天皇の時に創立と伝わる。祭神は伊邪那岐尊・伊邪那美尊・国常立命。川内明神・神元大明神・神元三社大明神とも呼ばれた。随神門は変形の八脚門で、本殿とともに文化元年(1804)の再建。

▶MAP C-3　莇野

亀山本徳寺
蓮如上人開基。浄土真宗本願寺派。「亀山の御坊さん」の名で親しまれている。天正8年(1580)の羽柴秀吉の英賀攻略後、秀吉から三百石の寄進(寺領宛行)を得て、同10年に、英賀から亀山に移る。

▶MAP D-7　手柄

亀山本徳寺門前
本堂を焼失したとき、播州門徒の強い要請で京都から移築。「播州真宗年表」等によると、構造・床材、屋根瓦に至るまで、海路飾磨津に運ばれ、飾磨街道を経て亀山に運ばれた。2年に渡る工事を経て、明治6年に完成。

▶MAP D-7　飾磨橋東

柏森神社
祭神は大山津見命。置塩城5代城主赤松則房が中国攻めの羽柴秀吉軍に服して、天正8年(1580)開城。その際、城の守護神を一つ選して祀ったと伝えられている。現社殿は春日造の小社で大正12年に改築されたものである。

▶MAP D-4　古知

杵築神社
祭神は、大国主命、野見宿祢、菅原道真など。古くは多気明神と言われ、今は「竹の宮」とも呼ばれている。古くから異(こと)相撲と呼ばれる喧嘩相撲で広く知られ、「荒浪」「一つ石」「岩崎九兵衛」という力士の墓が現存する。

▶MAP C-5　菅生

木庭神社
十神を祀る特異な神社である。寛永16年(1639)木庭(場)村の長者三木宗栄が創建「姫御前宮木庭大明神」と称した。寛保元年(1741)三木宗栄から四代目の孫、三木寸斗魚泰によって木庭山上に、ほぼ現状の姿で再興された。

▶MAP F-8　八木

九所御霊天神社(神屋天神)
「九所御霊」の名は、天正の頃、五座の神霊を祀っていたが、近世に小名彦命を主神とし、他の大物主命・菅原道真ら九所(九柱の神)の御霊を祀ったからと伝わる。玉垣に江戸期の木綿商人や明治期の企業名があるが、通称「神屋天神」。

▶MAP E-7　東

黒田家廟所
福岡城主黒田家の先祖を祀っている。周りを囲んでいる石塀は高砂市の竜山石。黒田家は重隆が御着城主小寺氏につかえ、職隆－孝高と続いたが、孝高(如水)が秀吉、家康につかえてその子孫は福岡城主となった。市指定史跡。

▶MAP F-7　御国野

黒田職隆公廟所
地元で「チクゼンさん」と呼ばれている凝灰岩製の五輪塔。天明4年(1874)福岡藩黒田家により築造。昭和52年妻鹿自治会が霊屋を改築。正面に「満誉宗圓大禅定門　天正十三酉八月廿二日」の銘があり、黒田官兵衛の父職隆の墓塔。

▶MAP E-7　妻鹿

桑原神社の狛犬
桑原神社にある狛犬。台座に明和元年(1764)と刻まれており、「姫路市の参道狛犬の中では最も古い参道狛犬」として知られている。

▶MAP E-6　城北

顕正院妙見堂
大歳神社の北にあり、妙見大菩薩を祀る。文政年間(1818～30)に飾西本陣の中山助太夫がこの寺を開き、息子が本堂を建立と伝わる。境内に寛政6年(1794)に建てた題目塔があり、助太夫が母の菩提を弔う為の墓石や代々の廟がある。

▶MAP D-6　白鳥

光明山勝瑞寺
勝瑞寺の寺号は浄土真宗東本願寺の初代教如上人より賜ったものと伝わる。この寺の梵鐘は明応6年(1497)に姫路野里の鋳物師の藤原勝久・宗久が廣峯神社の鐘として鋳たもので、寛政6年(1794)に勝瑞寺に移した。

▶MAP D-6　安室

固寧倉(刀出)
姫路城主酒井忠道が飢饉や災害に備えて米や麦を蓄えた倉として設置。固寧とは書経の「民ハ惟レ邦ノ本、本固ケレバ邦寧シ」による。扁額の揮毫は、藩主が幕府の儒者林大学頭述斎に依頼し、その子檉宇が書き欅の板に彫刻したもの。

▶MAP C-5　峰相

固寧倉(塚本)
庄屋、富豪、志のある者等の寄付により、米・麦・籾などの穀類を蓄積して凶作や災害等に備えた倉庫。江戸時代、姫路藩により多くの場所に作られたが、現在では、ほとんど残っていない。菅野地区では戸倉と塚本に残る。

▶MAP C-4　上菅

固寧倉(中村)
江戸末期、飢饉のときの貧民救済に備えて穀物を貯えた倉庫。今では、中村、妻鹿、東山、野里、刀出などに残る。固寧倉とは《民は惟れ邦の本　本固ければ邦寧し》という書経の語から儒学者林述斎が選んで名づけた。

▶MAP E-8　白浜

固寧倉(妻鹿)
文化6年(1809)の社倉法によって作られた義倉の一種。米、麦などを蓄えて不時の災害に備えた。入り妻造りの土蔵で「固寧倉」の扁額がかけられている。弘化3年(1846)には姫路藩内に288ヶ所設置された。

▶MAP E-7　妻鹿

今念寺五重石塔
今念寺にある凝灰岩製石塔。相輪を欠いており、現存部の高さは1.91mで鎌倉時代の作とされている。銘のある石造層塔としては県下最古で背面に「弘安三年(1280)庚辰二月日願主沙弥成仏」と刻む。県指定文化財。

▶MAP B-3　安富南

西源寺の東山焼燈籠
東今宿の西源寺の境内にある全高225cmの東山焼燈篭。燈篭台部分上方に「法勝寺(六勝寺の一つ、白川法皇御願の寺)の執行俊寛僧都自営の燈篭‥」と、燈篭の由来などが記されている。

▶MAP D-6　高岡

佐野邸
正徳元年(1711)、姫路城主榊原氏の新田開発の求めに応じて、この地に移り住んだ佐野玄意正春の住宅。長屋門、母屋、土蔵、庭園などから当時の庄屋クラスの豪農の生活ぶりを今に伝える。市指定文化財。

▶MAP E-3　前之庄

四軒屋地蔵尊
寛保2年(1742)の飾西郡御立村明細帳に「鹿谷道」と「書写道」の別れに石地蔵があると記されている。この石地蔵の台座の正面に「左志よしや道、右かや道」ときざんであり往来みちの道標であったことがわかる。

▶MAP D-6　安室

下手野常夜燈
旧山陽道が夢前川にさしかかる旧堤防上にある。ここに夢前川の渡し場があった。下手野村は姫路藩の助成宿場で、御船置場、一里番所、川会所などが設けられ、常夜燈の台石に刻まれている桔梗屋をはじめ9軒の宿屋があった。

▶MAP D-6　高岡西

若王子神社
祭神は伊弉册神。慶長年間(1596～1615)の建立。現本殿は一間社春造りで建築意匠が優れた社殿として市指定文化財となっている。石の鳥居は明和2年(1765)の建立、手洗鉢は昭和3年に奉納。大杉は市指定天然記念物。

▶MAP D-4　菅生

蛇穴神社
祭神は市杵島姫命で、使いの海の生物にちなんだ絵馬が多く奉納されている。蛸が裃をつけた絵馬は非常にユニークで、明治から大正の頃のものと伝わる。市指定文化財。

▶MAP F-5　香呂

十二所神社
十二所神社の祭神は少彦名神。延長6年(928)一夜で蓬草十二本が林立し、神の御告げと大将軍の地に社を建て、十二所権現として尊崇した。安元元年(1175)姫路城の裏鬼門として現在地に移る。

▶MAP E-7　城南

順正寺
浄土真宗本願寺派。元禄4年(1691)に本願寺派第14代寂如上人より開基佛として木像の尊像を授かり、海上山順正寺と公称したとみられる。明和3年(1766)に本堂伽藍を建立。昭和45年に再建され今日に至る。

▶MAP E-7　高浜

松林寺
真宗大谷派。もとは中島にあった天台系の寺院。真宗に改宗後、万治年間(1658～61)堂宇が焼失したので寛文13年(1673)現在地に移った。境内の手洗い石は安政6年(1859)のものである。

▶MAP E-7　高浜

書写山・圓教寺
康保3年(966)、性空上人が開いた天台宗の寺で、盛時は山上に170ほどの院や坊があり、天台宗三大道場の一つであった。天皇や貴族も訪れ、西国第27番の観音霊場でもあり重要文化財が多く、境内は史跡に指定されている。

▶MAP D-5　曽左

白国神社
213年に創建された播磨四の宮の一つ。祭神は神吾田日津賣命。阿曆武命の妻・高富媛がお産で苦しんだ時、神吾田津日賣命を祀り祈願したところ安産であったことから社殿を設けた。安産の神様として有名。

▶MAP E-6　増位

神権伝説「弁天島」、海神社(神権さん)
定期船発着場そばの鮮やかな朱塗りの橋を渡ると「海神社」がある。島では「神権さん」の名前で親しまれ、海神・竜神・弁財天が祀られている。漁師の父に代わって身を投じた美しい娘の伝説が伝えられ、漁師の守護神となっている。

▶MAP G-2　坊勢

神明神社
明治6年の記録に、天照大神社128坪と記載がある。村前新田50町歩(現天神町・恵美酒町)が成立した寛永期(1624～1643)ごろには、既に建っていたと考えられる。神明とは天照大神の特称である。

▶MAP C-7　大津

菅原神社
菅原道真を祀る。道真が九州に左遷される途中、天候が悪くなり船が進まず、英賀の田井ヶ浜に上陸した。この時、自作の木像が「我久」(高浜の浜辺の字名)という所に流れ着いていたのを祀ったと伝わる。

▶MAP C-7　広畑第二

諏訪神社　諏訪の岩穴
祭神は水利の神といわれる建御名方神。境内に多田古墳とよばれる全長40mの前方後円墳(県指定史跡)がある。現在、横穴石室内に石祠が置かれ、羨道入口前面に拝殿が作られていて「諏訪の岩穴」とよばれている。

▶MAP G-5　山田

善慶寺
明応元年(1492)の開基と伝わる。江戸中期に火災に遭い、本堂は正徳2年(1712)再建。本堂前には、安永10年(1781)の年号と鯱の瓦師の名を刻んだ鬼瓦がある。裏には阿弥陀坐像と並んで、三界萬霊等がある。

▶MAP B-8　網干

善導寺
寛仁2年(1017)誓忍阿闍梨の開基で、もとは椰本にあった。輝政の町割りで現在地に移る。勤王派の志士、河合惣兵衛と伝十郎親子の菩提寺で、没後140年にあたる平成16年に新しい顕彰碑を建立。およしギツネの伝説が伝わる。

▶MAP E-6　城巽

千年家(旧古井家住宅)
室町末期築と推定される、入母屋造り、茅葺き屋根の農家。神戸の箱木家住宅と共に、最古の中世農家建築と認められている。床下には亀石という大きな岩が、厄除けとして祀られている。国指定重要文化財。

▶MAP B-2　安富北

船場本徳寺
通称「御坊さん」。東本願寺の別院。江戸初期、藩主本多忠政の時に創設。本堂・表門・鐘楼・大玄関等は、市指定文化財。明治天皇の訪姫の行在所が現存。境内に薬師山から移した明治維新の勤王志士12名の墓石や西南の役記念碑がある。

▶MAP D-6　船場

千姫天満宮
千姫天満宮は、姫路城を一望する男山の中腹にある小さな社で、本多忠刻と再婚した千姫が元和9年(1623)に、本多家の繁栄を願い建立。城内から遥拝できるよう、東向きに造営、西の丸長局の廊下から朝夕遥拝したと伝わる。

▶MAP E-6　城西

千姫天満宮
男山千姫天満宮とも呼ばれ、姫路城の北西に位置し、城を一望する男山の中腹にある。元和9年(1623)本多忠刻と再婚した千姫が、本多家の繁栄を願って建立。平成14年に社殿が新築され、唐破風造りの流麗優美な姿になった。

▶MAP E-6　城乾

大覚寺
天福元年(1233)定翁隆禅上人が光接院として開基、後に弘治2年(1556)白鶴の霊験により現在地に移転し、鶴立山大覚寺と称した。国重文の絹本著色の釈迦三尊像(3幅)十六羅漢像(16幅)がある。

▶MAP B-8　網干西

ダイセル異人館(赤屋根)
明治43年、ダイセル化学工業㈱の前身の日本セルロイド人造絹糸㈱の外国人技師の住宅として建設。意匠は19世紀イギリスのコテージに類似、外装等はアメリカのコロニアル・スタイルと共通点が多い。市の都市景観重要建築物等に指定。

▶MAP B-8　網干

高岳神社
延喜式(10世紀)に記載された古社。「播磨国内鎮守大小明神記」には、太神二拾四社の中に高岳太神、播磨国内八所明神の第五の宮とあり、安室郷の総氏神だった。初め、安室郷新在家八丈岩山「鳶が巣」に鎮守されたが、蛤山に遷した。

▶MAP D-6　高岡

田川神社
この地区の水田を潤す須加院川をあがめて建立され、式内社として広く信仰を集めてきた。社殿後方には、推定樹齢550年の大ケヤキ(市指定天然記念物)を初め、広い境内には多数の古木が見られる。

▶MAP E-5　香呂南

竹宮神社
山の斜面を三段に削平して、上段本殿、中段拝殿、下段境内広場となっている。祭神は天照大神、豊受大神、大平神、宇カノ御塊。灯籠は宝暦9年(1759)、手水鉢は天保4年(1833)のもの。拝殿から本殿への石段は宝暦4年のもの。

▶MAP G-5　山田

通宝山弥勒寺
圓教寺開基の性空上人が長保2年(1000)に建立した草庵が始まり。現本堂は、天授6年(1380)赤松義則によって再建。本堂と本堂内の弥勒仏・両脇侍仏は国指定文化財。夢前七福神一番札所として、高さ5mの布袋が平成6年に造立。

▶MAP D-4　菅生

津田天満神社
古来、大歳明神を祀っていたが、後に菅原道真を敬慕した里人が、菅公を主神として津田天満神社とし、現在に至る。藤原親泰奉納「北野天神縁起」三巻は、昭和34年国重要文化財の指定を受け、奈良国立博物館に寄託されている。

▶MAP D-7　津田

徳栄寺
浄土真宗本願寺派。「播磨国末寺帳」に、寛永3年(1626)玄益が創立、元禄11年恵教の時代に寺号と木仏免許を受けたとある。棟札から本堂が天明7年(1787)に再建されたことがわかる。黒田官兵衛ともゆかりがあるといわれる。

▶MAP B-7　余部

富田山性海寺
性海寺は霊亀年間に徳道上人が開基したとされる天台宗寺院。歴代置塩城主の信仰が厚く、本尊十一面観音は、高さ1.8mもあり、胎内には赤松政則の持仏が納められているという。本堂前には幹まわり、2.07mのみごとな五葉松がある。

▶MAP E-5　置塩

二百余神社・狛犬
寛和2年(986)、巨智延昌が多聞寺(本誓寺の前身)の鎮守社として創建。後醍醐天皇が隠岐島より還幸の途中、多聞寺で護摩を修せられ、鎮守社に二百余の神々を合祀し、二百余社と称するようになったという。狛犬は、県指定文化財。

▶MAP C-4　上菅

八王子神社(書写)
書写山の性空上人が廣峯神社の分霊を書写山鉢ヶ坪に迎え王子権現と称した。祭神は素盞嗚尊と八柱御子神(五男三女神)。天正年間(1573～92)、神々を東坂の神籬(ひもろぎ)の空間に社殿を構え遷座した神社である。

▶MAP D-5　曽左

八王子神社(山崎)
山崎集落北の山麓にあり、古くは八王子若王子権現と呼ばれ、八王子神、若王子神などを祭神とする。明治元年に姫路城から移築されたと伝わる高麗門形式の門があったが、老朽化が著しく倒壊のおそれがあり、平成23年に撤去された。

▶MAP F-6　谷内

八幡神社(香寺町須加院)
神崎郡誌に「応神天皇の車駕播磨国に神崎郡行幸あらせられた時、的部里須金山を経て当社鎮座地に御駐輦の事あり。後人其地に社殿を建て天皇を奉祀した」とある。当初の社殿は現在の神殿の南にあったと推察される。

▶MAP E-5　香呂南

八徳山八葉寺
天平年間、行基によって開基せられ、平安末期、寂心が七堂伽藍を整備した播磨天台六ケ寺の一つ。書写山圓教寺の性空上人、寂心へ贈られたと伝わる沐浴の湯釜(市指定)、厨子(県指定)など多くの文化財がある。

▶MAP E-5　香呂

早川神社
速川社とも称し、阿成の氏神で兵主神(大己貴命)を祀る。市川の自然堤防上にあり、「播磨国風土記」の倭穴無神の神戸の所とみられる。その分霊を祀ったのが早川神社で、神名からこの地を「アナシ」と呼び、江戸期に阿成となる。

▶MAP E-7　高浜

林田大庄屋旧三木家住宅
三木家の祖は英賀城主三木氏と伝わる。英賀城落城後、林田の聖ケ岡に居住し大庄屋をつとめる。3代目定久の時、現在地に移った。主屋は17世紀後半の建物とみられ、主屋、長屋門、土蔵等6棟が県指定重要有形文化財になっている。

▶MAP B-5　林田

毘沙門天王堂
「播磨国風土記」に出てくる「石座の神山」で、神の座と信じられた磐座。石仏立像は、御身丈2尺5寸。毘沙門天堂は、天保15年(1844)、方二尺の堂を建立、明治42年に現在の堂に安置。

▶MAP E-5　香呂南

百丈山臨済寺
南北朝時代の1379年、播磨の守護赤松義則に招かれた別峯(べっぽう)国師が開山した禅宗臨済寺派の寺院で、現本堂は姫路城主松平直矩(なおのり)が延宝3年(1675)に再建したもの。

▶MAP D-3　前之庄

蛭子神社
木場港の西岸にある蓬莱山に鎮座する神社で恵美酒神社ともいう。創始は、天平宝字7年(763)といわれている。戦後、社殿が荒廃したが、宇佐崎の有志の永年の努力が実を結び、昭和59年に立派な社殿が完成。

▶MAP E-8　白浜

廣畑天満神社
氏神は菅原大神・蛭子大神・春日大神。神社の源起は霊亀年間(715～716)に東大寺領廣畑荘園の鎮守社として祀られたという。明治31年の亀山雲平撰の碑記によると、明治2年に京都の北野天満宮の分霊を勧請した。

▶MAP C-7　広畑

廣峯神社
2千有余年前の太古、崇神天皇の御代に素盞嗚尊とその御子神で五十猛尊が白幣山に鎮座されたと伝わる。聖武天皇の御代、この地を訪れた吉備真備(きびのまきび)公が信託を受け、現在の奥の院、吉備社がある位置に社殿を建立。

▶MAP E-6　広峰

福泊神社
室町時代に建てられた神社で石垣が旧飾磨郡と印南郡の境界線であった。この社殿は市指定文化財になる。本殿には室町時代の建築技法とか登り竜と下り竜、ひき蛙等珍しい彫刻が見られる。

▶MAP F-8　的形

仏心寺　石造五輪塔
仏心寺裏の墓地にあり凝灰岩製。火輪(笠石)と風輪(受花)の一部が欠け、空輪(宝珠)は後補である。各輪の四面に四門の梵字を配し、書体は端正な薬研彫り、地輪(基礎)は、やや下膨れで安定感がある。鎌倉時代の作。県指定重要文化財。

▶MAP F-7　別所

佛日山法輪寺(秀吉ゆかりの湯沢山茶くれん寺)
寺の由来は平安時代にさかのぼり、江戸期に妙心寺派佛日山法輪寺となる。英賀城攻めの時、平侍の格好で立寄り茶を所望した秀吉に茶を出そうとせず、のちに正体を明かした秀吉が、湯沢山茶くれん寺と寺号を与えたと伝わる。

▶MAP D-7　荒川

真浦神社
建立時期、きっかけともに不明。建築様式から江戸時代のものと思われる。真浦では「氏神さん」と呼ばれている。元の名は「荒(こう)神社」。奥津彦神・奥津姫神が祀られる。11月2日・3日に秋祭りが行われ、2台の屋台が練り競う。

▶MAP G-1　家島

増位山・随願寺
播磨天台六山の寺。聖徳太子の命により、高麗の僧・慧便の開基と伝わる。天平年間に、行基が中興し、山上に36坊がある大寺であった。1573年別所長治によって全山焼失したが天正14年(1586)に羽柴秀吉が再興した。

▶MAP E-6　増位

松原八幡神社
所在は白浜町甲(旧松原村東ノ丁)。祭神は品陀和気命(應神天皇)・息長足姫命(神功皇后)・比咩大神の三神。毎年10月14日・15日の秋季例祭は「灘のけんか祭り」とも呼ばれ、旧灘7カ村の氏子が豪華な屋台を練り競う力強い祭りである。

▶MAP E-8　白浜

水尾山補陀落寺
性空上人の開基で、上人自ら十一面観音像を彫り、本堂に安置したと伝える天台宗寺院。天禄2年(971)、寺号を補陀落寺と称したという。観音堂は、県指定文化財。水尾山一帯は、県の自然環境保全地区に指定されている。

▶MAP C-3　莇野

湊神社
広い境内をもち、神殿、拝殿は山麓の小高い地にあり、その石段の坂道に万葉集の歌碑が立っている。毎年、10月13日・14日の秋祭りの豪華絢爛な屋台の練合せや神事などは見る人々を魅了する。

▶MAP F-8　的形

宮浦神社(白髭霊祠)
宮地区の氏神で家島神社と関係が深い。社伝によれば比叡山実相院の覚円僧都が、霊夢によって琵琶湖に準え、白髭大明神を勧請したという。7月24日・25日の天神祭では、当社の火を戴いた提灯行列が家島神社に火を移す。

▶MAP G-1　家島

妙善寺
播磨四ヵ道場の一つ、永正9年(1512)津田牧水田村妙善寺への開基佛が伝来。伊藤美濃守長英の次男次郎が蓮如上人の教化をうけ善教と名乗り、後祐善と改めて開祖となる。今の本堂は文化5年(1808)、十一世恵巌の改築。

▶MAP D-7　津田

木像毘沙門天立像(岩屋寺)
十二世紀前半ごろ、藤原時代の作とみられ、市内に残る毘沙門天像の中では、随願寺(増位山)のものと並ぶ優秀作である。国指定重要文化財。

▶MAP F-6　豊富

木造不動明王立像他絵画2幅
本尊不動明王立像は平安時代末期の檜一木造りで、承安元年(1171)に旧安志藩主小笠原氏の遠祖の加賀美遠光が高倉天皇から拝領。小野篁作と伝わる。小笠原氏の祈願所であった光久寺本堂は平成21年に焼失した。国指定重要文化財。

▶MAP B-3　安富南

八重畑の廻国塔
天川の左岸、谷内公民館の南の山麓に建てられている。正面に「大乗妙典日本廻国供養塔　六十六部天下和順　日月清明」とあり、嘉永元年(1848)願主当村伊左エ門の銘文がある。

▶MAP G-6　谷内

薬師堂
薬師如来像は高さ72.57cmの木造坐像。郷土史研究家の故大貫繁次氏によると室町中期の作といわれる。この像は昔高取山西南端(現鹿島台団地西上)にあった長尾寺に祀られていた。毎年4月8日れんげの花につつまれた法会が行われる。

▶MAP D-6　安室東

薬常寺
天台宗山門派、本尊は、薬師如来坐像(鎌倉時代)。他に阿弥陀如来立像、観音菩薩立像、十六善神像図、隠れキリシタン地蔵等優れた宝物がある。毎年6月には菩提樹祭が開かれ、市内外から老若男女が集い楽しむ。

▶MAP F-5　船津

山田荒神社
祭神は奥津彦命・奥津姫命で、火の神として地区の人々の厚い信仰がある。江戸時代後期、天保年間に灯明運動が始まってから約170年間、氏子が当番制により毎晩、常夜燈の火をともす運動が現在も守り続けられている。

▶MAP D-6　安室東

行矢神社
「播磨国風土記」に、八丈岩山に因達神(射楯神)がおられるから、この山の付近を因達里というとある。南麓の矢落の人は、この神と南にある秩父山に祭られた兵主神(大汝命)の二神を行矢神社に祭った。

▶MAP D-6　安室東

龍門寺
寛文元年(1661)創建。開基は赤松円心の弟、光則。嘉吉の乱で戦死後、廃寺しかけた龍門寺を盤珪国師が再興。国師の「不生禅」は大名に限らず庶民からも深い信仰を得た。毎年4月に行われる献茶会は直径約50cm超の大茶碗で有名。

▶MAP B-8　網干西

臨済宗東光寺
創建年は不詳であるが、永仁年間(1293～1299)に創建されたと伝わる。その後戦乱で荒廃したが、伏見天皇(鎌倉時代)の離宮とされた由緒ある場所のため、池田輝政が現地に移建、跡地に姫路藩の御茶屋を創設した。

▶MAP E-6　城北

初代飾磨市長の銅像
岡上彦三は、明治13年8月大浜に誕生。明治45年の飾磨郡会議員を振出しに、飾磨町会議員、飾磨町長(昭和6年～同15年)を務めた。昭和15年「飾磨市」として市制施行後は、初代市長を務めた。

▶MAP D-7　飾磨橋東

藤田翁顕彰碑
弘化3年(1846)200石超の船が出入りできない飾磨津河口を改良して湛保(港)が築かれることになり、大浜の肥料問屋・藤田祐右衛門維昌を中心に丸亀港を参考に6ヶ月で完成した。藤田はこの功績により、大年寄格となり苗字も許された。

▶MAP D-7　飾磨橋西

和辻哲郎の生家(1889～1960)
砥堀小学校を卒業し東大に入学。東京帝国大学で古典及び仏教美術を研究し、「風土」「古寺巡礼」など多くの著書を著した日本を代表する思想家。碑があり「春の来た日に　和辻哲郎　ここに生まれる」と刻まれている。

▶MAP F-5　砥堀

愛宕神社の火揚げ(朝日谷)
朝日谷の年中行事の一つで、8月15日の夜に行われる。かつては20m近い竿に籠をつけて行っていたが、現在はやや簡素化し、高い柱の先にワラを詰めたジョウゴ形の竹籠を結わえて建て、たいまつを投げ上げて火をつける。

▶MAP B-7　勝原

魚吹八幡神社(津の宮)の秋季例祭
網干の地名は、津の宮の放生会で、氏子の漁師が殺生を禁断して網を干したことに由来。今ではこの魚吹神社の秋祭りを網干まつりと称し、毎年10月21～22日に近郷25ヶ村が集まり、お旅提灯や檀尻と屋台を出し合う。

▶MAP B-7　網干

魚吹八幡神社の秋季例祭
10月21・22日に行う。宵宮は竹竿の先に高張提燈をつけた「お旅提燈」の打ち合いや練り合いなどを行う。本宮は境内で獅子舞、楼門前で壇尻芸などが演じられ、「チョーサ」の掛け声で行う屋台練りや、壇尻の綱練りは勇壮。

▶MAP B-7　旭陽

恵美酒宮天満神社秋季例大祭
「恵美酒宮祭り」は「台場練り」と言われ有名。大屋台は80人余の練り子が昇ぐが、神前において神に屋台を奉納する時は、より優れた力の持主が80人余の練り子に代わり24人で台場を昇き、男の力強さを神に示す。

▶MAP D-7　飾磨橋東

苫道国主神社
主神の苫道大神はこの地を開発し経営した地主神で、往古より鎮座されていた。英賀城攻めの時、播磨灘が一望でき、絶景である。秋の一日、苫編、西苫編の住民が集い、屋台を練り上げる。急坂、階段あり、眺めの良さを楽しまれている。秋祭りは10月第2日曜日。

▶MAP D-7　荒川

浜の宮天満宮と秋季例大祭
境内の「えべっさん」は宮と須加の4ヶ所から移したと伝わる。漁業の神の夷神を祀ったものが祭神で、それに菅原道真の天神信仰が重なったと推察。「サイテバチョーサー」の掛け声で屋台を差上げる台場差しは市指定無形民俗文化財。

▶MAP D-7　飾磨橋西

ぼうぜペーロンフェスタ、大漁旗
毎年8月第1土曜日に開催される。京阪神や関東から、約1,500人が参加する。競漕の最後には、坊勢島の3港対抗戦があり、地元漁師の熱い戦いが繰り広げられる。青い空に舞う大漁旗は豪華で美しい。

▶MAP G-2　坊勢

宮田屋台
現在の屋台は3代目(平成5年製作)。「松に鷹」の紋を前後に、巴を左右に配置。高欄下に播州屋台唯一の若狭塗りを施してある。隅紋りは亀甲模様に鳳凰をあしらい、屋台に隙間が無いよう引締めている。2代目は書写の里・美術工芸館で展示。

▶MAP B-7　大津茂

「お陰参り図」絵馬
稲岡神社の旧本殿を転用した絵馬殿にある。伊勢参り一行や青山の遠景などが描かれる。文政13年(1830)奉納。県指定文化財。ほか延宝3年(1675)の神馬図、天和2年(1682)の境内図、同3年合戦図などがある。

▶MAP C-6　青山

随願寺　毘沙門天立像
平安時代に造られた木造の仏像。像の各部が調和し躍動的である。明治34年に旧国宝、昭和25年に国の重要文化財に指定された。収蔵庫に安置されており、特別の時に公開される。

▶MAP E-6　増位

岩部の樽かき
昔、大雨により、市川が氾濫した際、竜のごとき大蛇が大水害から身をもって村を守ったと伝わり、その大蛇に感謝を捧げるため、大蛇祭(大将祭り)として氏神さんに参るようになった。これが現在に続く樽かきの始まりである。

▶MAP F-5　中寺

土師獅子舞
土師大年神社の秋祭りに奉納されている。祭礼当日は、氏神、大年神社と山王神社で舞い清めた後、集落全戸を廻って荒神祓いを舞う。現在、13種の演目が伝承されている。市指定無形民俗文化財。

▶MAP F-4　中寺

龍王舞(通称ジョマイジョ)
毎年10月初旬の正八幡神社の秋祭に奉納される舞で、平成2年に市指定無形民俗文化財に指定された。鼻高(天狗)面を付け、鳥兜をかぶり、真っ赤な衣装に黒塗りの鉾を手に舞う。

▶MAP F-4　船津

伊勢山・神座の窟
伊勢山は東側の本峰(標高478.6m)と、神座の窟がある西側の岩峰がある。神座の窟は、高さ55m、幅70mの天然岩窟。「播州名所巡覧図絵」にも記載され、不動明王・弘法大師・役行者の小さな石仏三体が安置されている。

▶MAP C-5　伊勢

市川堤防の桜
昭和59年に姫路中央ライオンズクラブが設立20周年を記念して市川右岸道路東側にソメイヨシノ(100本)を植樹。平成6年に西側にも80本余りのソメイヨシノを植樹。今ではいずれも大樹に育ち地域の名所になっている。

▶MAP E-6　東

打越木もれ日の森
兵庫県が「ひょうご豊かな森作りプラン」に基づいて、平成8年3月、打越が所有する林野を整備した。散策路は北コースと南コースがある。

▶MAP C-5　峰相

馬坂峠
その昔、馬の首を埋めたという由来がある。ノジギクの時期は最高で、岩と林のトンネルの向こうに見える町の風景も郷愁を誘う。

▶MAP F-8　大塩

大津茂川　横堰と田井潮止め水門
「よこせん」とは、元禄13年福井大池の水不足から池郷を脱退した3か村(田井・平松・吉美)が平松に造った塩害防止機能も有する灌漑用井関のことをいう。昭和51年の激甚災害による大津茂川大改修で、新たな潮止め水門が完成(昭和53年)。

▶MAP B-7　大津茂

甲山
「播磨国風土記」にある胄岡のことと考えられる。伝承によると、「豊富」の地名は「播磨国風土記」に由来する。市川沿いの独立丘(標高107.8m)で、山頂に甲八幡神社がある。

▶MAP F-5　豊富

京見山
標高216m。尾根道が整い、自然を観察しながら才や太子町原方面まで縦走することができる。古墳が数多く築かれ、また、江戸時代中期～大正期には、大坂(阪)堂島の米相場を中継する「旗振り通信」も行われたといわれている。

▶MAP C-7　勝原

鹿ケ壺
県指定の名勝で、渓谷の岩床が永い歳月を経てできた甌穴が十数個連なる。「鹿ケ壺」の名称は、最上流の甌穴が鹿の寝姿に似ていることから由来する。水深が深いものには「底なし壺」等、いずれの甌穴にも名称がつけられている。

▶MAP C-2　安富北

小赤壁
木庭山、姫御前山、燈籠地山の南側は、海に面して崖をなし、奇石巨岩が至る所に姿を見せ、絶景の自然美をもつ景勝地である。江戸時代、中国の赤壁に似ているということから頼山陽が「小赤壁」と命名した。

▶MAP F-8　的形

雪彦山
日本百景並びに日本三彦山の一つである雪彦山は、鉾立山(ほこたてやま)(662m)、洞ケ岳(ほらがだけ)(884m)、三辻山(みつじやま)(915m)の三山を総称したもので、一般的に洞ケ岳を雪彦山と呼ぶ。

▶MAP D-1　山之内

手柄山
標高約50m。三和山とも言う。大永年間(1521～28)には、三輪法泉が手柄山構居を置いた。江戸時代に、刀鍛冶が居住し、作刀した。手柄山氏繁が著名。「播磨國刀匠顕彰碑」がある。

▶MAP D-7　手柄

蛤山
蛤山は、播磨国五ノ宮であった高岳神社が鎮座、盤座としても名高い山である。高岳神社の御神体になっている大岩に蛤の化石が出るとか、この付近一体に蛤の化石があるとかいわれ、御神体の岩を蛤岩といい、この山を蛤山という。

▶MAP D-6　高岡西

明神山
標高668mの明神山は、古くから「播磨富士」と呼ばれる。頂上からの展望は360度遮るものがなく、晴天の日は瀬戸内海が一望でき明石海峡大橋も見える。山麓には、逆さ富士で有名な岩屋池があり神秘的な明神山の姿を写す。

▶MAP D-3　前之庄

夢前川
鹿谷中学校区北端の雪彦山にその源を発し全長39.8km。紀貫之が「現(うつつ)にはさらにもいはず播磨がた夢前川に流れてもあはん」と詠んだ。上流では、春は河畔での花見、夏は清流での川遊びや鮎狩りを楽しむ人で賑わう。

▶MAP D-2　山之内

護持川・菅生川の蛍
古瀬畑やバーズタウン入口を流れる川で、毎年6月には、たくさんの蛍が乱舞する美しい光景が見られる。この蛍を見るために訪れる人も多い。

▶MAP C-4　上菅

天神のムクの木
天満神社の根回り約10.5m、樹高18.6m樹齢約600年といわれるこのムクの木は、老木の風格を備え、見事に整った樹形は県下有数の巨木として価値が高いもの。県指定天然記念物。

▶MAP B-4　安富南

西国街道
西国街道は京・大阪より姫路城下を通り、西国・九州方面に通じていた主要街道で、福中門から北上し、龍野町を通っていた。往時は、姫路一の繁華な街道筋であった。町家が点在し、姫路初の商店街の面影が残る。

▶MAP D-6　城西

西国街道(旧山陽道)
市川の渡しから城内に入る外京口門へとつづく道が西国街道(旧山陽道)。今なお、当時しのぶ細く曲がった道がつづく。今は、道中が神和町で旧街道が途切れているが、ここでは昔の町並みの風情がまだ少し残っている。

▶MAP E-7　東

住本家住宅
建築は明治中期。主屋は二階建つし付き、屋根は本瓦葺で西側が入母屋造、東側は切妻造で元の納屋の屋根が続く。土間の上には越屋根が架けられ、二階部分は漆喰で塗籠められている。平成8年、市の都市景観重要建築物等に指定。

▶MAP C-7　広畑

千姫の小径
船場川と姫路城の堀の間の遊歩道で、清水橋から白鷺橋の間をつないでいる。桜の木が植えられており、春には桜の花が咲き誇っている。

▶MAP E-6　城西

白鷺橋
昭和初めに姫路城の中堀を埋めて国道2号を造った時に、船場川に架けられた。姫路大空襲で被災したが、昭和49年からの国道2号拡幅工事でも焦げ跡の残る欄干をそのまま使用し、橋を拡幅して平成3年に竣工した。

▶MAP E-6　船場

町家(魚橋呉服店、大野家住宅など)
門前町や城下町として、また交通の要所として栄えた野里は、旧野里街道を中心に、多くの町家遺構、歴史的町並みが残る。中でも、魚橋呉服店、大野家住宅は市の都市景観重要建築物等に指定されている。

▶MAP E-6　野里

八木家住宅
八木家は丸亀藩網干組大庄屋を勤めた。海鼠壁の長屋門が見事。かつて東から北面の道路は水路で、裏門の北には船着場があったといわれている。長屋門の西にはクスノキの巨木があり、保存樹に指定されている。

▶MAP B-7　余部

山本家
大正3～7年に施工。土塀越しに見える3階建、黒壁塗りの望楼風の塔はひときわ高い。外観は通常の和風ではなく、上げ下げ窓や鎧戸など洋風の要素をミックスしたもの。市の都市景観重要建築物等に指定。

▶MAP B-8　網干西

レンガ造りの工場
明治34年の地図に「燐寸(まっち)製造所」とあり、その頃からの建物と見られる。姫路ではレンガ造りの建物はほとんど見られなくなり、貴重である。現在、山陽色素㈱第二工場となっている。

▶MAP D-7　船場

伊勢自然の里・環境学習センター
里山の自然豊かな環境を保全し、子どもから大人まで、様々な世代が楽しみながら環境の保全について学習できる場として、市が平成16年4月24日に開設した自然体験型の環境学習施設。

▶MAP C-4　伊勢

慰霊塔(太平洋戦全国戦災都市空爆死没者慰霊塔)
昭和31年10月建立。不戦の誓いを込めて、剣を逆さまに突き立てた造形。

▶MAP D-7　手柄

奥播磨ふるさとかかしの里
関の生活エリアに、山村の情景に合った「かかし」が随所に配置されており、訪れる人々に癒しと和みを与えている。このかかしを観るために近畿一円から人々が訪れるようになり、地域の活性化にも大きく貢献している。

▶MAP C-1　安富北

共同井戸
この地に新在家の里ができた数百年の昔から、生活用水として無くてはならぬ存在で、現在も澄み切った清水が湧いて出る。播磨50水に数えられている。

▶MAP E-6　城乾

京見会館
昭和16年に広畑製鐵所の迎賓館として建設。大型客船のキャビンを模して造られたというリビングルームや洋風のダイニングルームなど和洋室が配置されている。昭和51年5月19日皇太子ご夫妻(現天皇、皇后両陛下)がご宿泊された。

▶MAP C-7　広畑第二

自治会立広畑保育園
昭和42年に設立された全国でも珍しい自治会立の保育園。「地域の子どもは地域の手で育てよう」という考えが受け継がれ、現在も地域の子育て支援施設として自治会が運営している。

▶MAP C-7　広畑

船場川　大樋
往古の市川は、幾筋にも川が流れ今の船場川が本流であった。度重なる洪水被害に江戸時代の初期に、現在の市川筋が本流に切り替わった。船場川は農業用水、姫路城の中堀や外堀にも利用され、市川からの取水口として「樋門」が建設された。

▶MAP F-6　水上

外堀川
城を囲む三重の堀のうち、外堀沿いの一番外側の区画を外曲輪という。外堀は、中堀に続いて野里門から清水門に至り、船場川を利用し、南は山陽本線の北を東へ。東は外京口門を北上し、竹之門を経て野里で終わる。堀の終点を堀留という。

▶MAP E-6　城東

日本玩具博物館
白壁土蔵造りの6棟の建物の中に、日本の郷土玩具、駄菓子屋の玩具、世界150カ国の玩具約8万点が収集され、常設展の他、1号館と6号館の2つの建物で季節ごとに特別展が催されている。

▶MAP F-5　香呂

野里の町名
池田輝政の城下町町割の時に外曲輪に町人地が設けられ、随願寺、慶雲寺、雲松寺等の門前町として栄えた。多くの町名は当時の商いや職種などによりつけられたと言われており、現在も29の町名が残る。いわれを説明する看板が各町にある。

▶MAP E-6　野里

はやしだ交流センター　天然温泉ゆたりん
平成19年オープン、深さ1,338m、約2億1千万年前の堆積岩(丹波層群)の割れ目から湧き出す天然温泉。大浴場、露天風呂、薬湯、サウナなど内容は充実している。足湯、野菜直売所、お土産店、レストラン等内外施設も充実。

▶MAP B-5　林田

姫路公園競馬場
姫路競馬場は姫路公園競馬場として市民一般に開放されている。幼稚園児達が散策を楽しんだり、サッカーの練習等中央の芝生広場を使用することもできる。

▶MAP E-6　広峰

広土地区画整理完了記念
広土地区画整理事業の完成を祝って記念碑が建てられた。表碑には「姫路都市計画事業　広土地区画整理完了記念」と銘が記されている。

▶MAP C-7　広畑第二

陸上自衛隊姫路駐屯地
姫路駐屯地は、旧陸軍第10師団編成に伴い、明治30年に設立。幾多の改変を経て、現在では、第3特科隊、第3高射特科大隊等が駐屯し、概ね県下一円を防衛・警備及び広報隊区とし「地域と共にある」駐屯地として活動している。

▶MAP E-6　広峰